

令和 6 年度（2024 年度）

（令和 6 年 7 月 1 日～令和 7 年 6 月 30 日まで）

事業計画書

一般財団法人 国際協力推進協会

1. 太平洋島嶼国開発協力事業

- (1) 太平洋諸国・大学生招待計画【継続】
- (2) 太平洋諸国・記者招待計画【継続】
- (3) 太平洋諸国・リーダー招待計画【継続】
- (4) 太平洋諸国・環境セミナー【継続】
- (5) APIC・MCT 協力事業（離島の貯水タンク設置）【継続】
- (6) APIC・MCT 協力事業（大学院生支援）【継続】
- (7) 上智大学 Island Sustainability 研究所の支援【継続】
- (8) 次年度以降の事業調査費・予備費

2. 日・カリブ友好協力事業

- (1) 西インド諸島大学・大学生招待計画（太平洋と同時実施）【継続】
- (2) カリブ諸国・記者招待計画（太平洋同時実施）【継続】
- (3) カリブ諸国・リーダー招待計画【継続】
- (4) 西インド諸島大学 大学院生支援【継続】
- (5) 上智大学 Island Sustainability 研究所の支援【継続】
- (6) 次年度以降の事業調査費・予備費

3. 国際協力に関する講演事業

- (1) APIC 早朝国際情勢講演会【継続】
- (2) 国際協力懇話会【継続】

4. 留学生奨学金事業【継続】

事業の概要

1.太平洋島嶼国開発協力事業

太平洋島嶼国との信頼関係を構築し、友好関係の一層の推進を図るため、「太平洋島嶼国開発協力基金」を活用して、太平洋島嶼国の環境、エネルギー及び観光の分野における開発協力事業として、在外日本大使館及び外務省アジア大洋州局大洋州課の協力を得ながら、次のプロジェクトを実施する。

(1) 太平洋諸国・大学生招待計画【継続】

太平洋島嶼国の大学生を我が国に招待して、短期間の研修を行う。新型コロナウイルス感染症蔓延による渡航制限等に鑑み令和2～4年度は実施が困難となり中止としたが、令和5年度以降は過去に冬季（1月）に実施していたものを夏季（7月）に変更して実施することとした。本年度は、南太平洋大学（ソロモン諸島、フィジー）から2名、ミクロネシア連邦、パラオ共和国、マーシャル諸島共和国の短期大学から各1名、計5名が上智大学の夏季プログラムに参加し、日本等についての基礎講義を受講するとともに、環境・エネルギーなどの関連施設の視察も行う。実施時期は2024年7月を予定。西インド諸島大学・大学生招待計画(※)と同時に実施する。

(参考)

年度	対象国（人数：名）
H27	ミクロネシア連邦（2）、パラオ共和国（2）、マーシャル諸島共和国（2）、フィジー共和国（1）、サモア独立国（1）、ソロモン諸島（1）
H28	ミクロネシア連邦（2）、パラオ共和国（2）、マーシャル諸島共和国（2）、フィジー共和国（2）
H29	ミクロネシア連邦（2）、パラオ共和国（2）、マーシャル諸島共和国（2）、フィジー共和国（2）
H30	ミクロネシア連邦（2）、パラオ共和国（2）、マーシャル諸島共和国（2）、フィジー共和国（1）ソロモン諸島（1）
R1	パラオ共和国（1）、マーシャル諸島共和国（1）、ソロモン諸島（1）
R2	フィジー共和国(1)、ソロモン諸島(1) 中止
R3	中止
R4	中止
R5	ミクロネシア連邦（1）、パラオ共和国（1）、ナウル共和国（1）、ソロモン諸島（1 ⇒ 不参加）
R6	ミクロネシア連邦（1）、パラオ共和国（1）、マーシャル諸島共和国（1）、フィジー共和国（1）ソロモン諸島（1）

(2) 太平洋諸国・記者招待計画 (APIC Journalism Fellowship Program) 【継続】

太平洋島嶼国の有力記者を招待して、我が国の環境保護・防災・エネルギー利用などについて理解を深め、もって我が国の現状についての広報を行ってもらう。本年度は、記者4名(サモア(出身)、フィジー、マーシャル諸島共和国、バヌアツ)を招待して、島根県隠岐郡海士町を訪問し、環境・エネルギー等の関連施設の視察を行う。本件招待計画については、諸外国の記者招待に知見のある公益財団法人フォーリン・プレスセンターの協力を得て実施する。実施時期は2024年9～10月を予定。カリブ記者招待計画(※)と同時に実施する。

(参考)

年度	対象国
H27	フィジー共和国、マーシャル諸島共和国、パプアニューギニア独立国、トンガ王国、ミクロネシア連邦
H28	フィジー共和国、パプアニューギニア独立国、トンガ王国
H29	フィジー共和国、サモア独立国、米領サモア
H30	パプアニューギニア独立国、米領サモア
R1	パラオ共和国、トンガ王国、マーシャル諸島共和国
R2	中止
R3	中止
R4	フィジー、ソロモン諸島、グアム
R5	ソロモン、バヌアツ、グアム、
R6	サモア(出身)、フィジー、マーシャル諸島共和国、バヌアツ

○事業開始初年度からフロイド・タケウチ氏がプログラムコーディネーターとして、平成30年度からドーン・マタス氏がアシスタントプログラムコーディネーターとして参画している。

(3) 太平洋諸国・リーダー招待計画 【継続】

太平洋島嶼国のリーダーを我が国に招待して、我が国のオピニオン・リーダーとの会談や、環境・エネルギー・観光に関連する視察を通じて、我が国についての理解を深める。昨年度は、ミクロネシア3カ国から3名の若手リーダーの招待を実施した。本年度は、国交樹立30周年でもあるパラオ共和国から、伝統的女性リーダーなど女性3名を招待予定。そのほか、バヌアツ、パプアニューギニアからも大臣レベルの要人を招待予定。

(4) 太平洋諸国・環境セミナー 【継続】

我が国からオピニオン・リーダーを太平洋島嶼国に派遣して、我が国が取り組んでいる環境問題等についての講演を行うと共に、その機会を利用して対日理解を深める。実施国については、バヌアツを検討中。講師に担当理事が同行し、APICの活動についての広報活動、ひいては環境・エネルギー・観光についての日・バヌアツ協力を促進する。環境関係者のネットワーク構築に貢献するものと考えられる。実施時期は2025年3月頃を検討。

(参考)

年度	派遣国
H27	パラオ共和国（まくどなど教授、荒木理事）
H28	マーシャル諸島共和国（まくどなど教授、織教授、荒木理事）
H29	ミクロネシア連邦（まくどなど教授、荒木理事、佐藤理事長、本多評議員）
H30	サモア独立国（まくどなど教授、島内評議員、荒木理事、斉藤職員）
R1	ミクロネシア連邦チューク州→中止
R2	中止
R4	中止
R5	ミクロネシア連邦（チューク州・ポンペイ州）、マーシャル諸島共和国（織教授、まくどなど教授、重家理事長、鳥飼理事、荒木理事、斉藤）
R6	バヌアツ（講師 2 名、APIC 役職員 2 名）

(5) APIC・MCT 協力事業（離島の貯水タンク設置等）【継続】

パラオ共和国・ミクロネシア連邦・マーシャル諸島共和国・グアム・北マリアナ諸島の 3 カ国・2 地域は、生物多様性を保全し持続可能な自然資源の利用を図るため、「ミクロネシア・チャレンジ」という共通の環境政策を策定し、環境保護のための資金を積み立てているが、この資金の管理を委託されているのが **Micronesia Conservation Trust**（以下 MCT）という民間の環境保護基金である。MCT は、また、自身の活動として、世界銀行等からの資金を得て環境保護活動も実施しており、APIC との協力事業もその一環である。

APIC は、2014 年 10 月に MCT との間で協力に関する覚書（MOU）を締結しており、以来、豚舎の排泄物処理、貯水タンク、貯水池・給排水設備改修プロジェクト、給水パイプの取り換えプロジェクトなど、環境分野の支援を行ってきている。

今年度も要請があれば、支援を行うこととし、MCT だけでなく、他の機関との連携による支援も視野に入れつつ、現地での実態を踏まえた具体的な要請を受け、検討することとする。

年度	案件
H27	豚小屋案件
H28	貯水タンク
R1	海洋保護活動
R2	水タンク
R3	給水パイプ
R4	配水管工事 貯水タンク

R5	貯水タンク
R6	貯水タンク

(6) APIC と MCT との協力事業 大学院生支援【継続】

MCT との協力事業の中で長期的に環境保護に携わる人材育成も意義のある支援であるという観点から、上智大学との協議の末、2017年に、APIC-MCT 留学制度を創設し上智大学大学院地球環境学研究科で受け入れを行うこととなった。協定により、ミクロネシア地域の国籍・市民権を有し、環境文化に関心のある者が最大2名、地球環境学研究科のあん・まくどなど教授の指導の下で2年間の修士号を取得するプログラムとなっている。この制度により、MCTからの推薦があった者に対して高度な大学院教育の機会を与えることが可能となる。

下記の通り、継続的にミクロネシア地域の未来を担う人材を育成するためにミクロネシア3カ国からの学生9名が既に卒業し、母国でも活躍している。現在、2名の学生が在学しており、今年度秋にはミクロネシア連邦ポンペイ州から2名の入学が予定されている。

年度	入学学生出身国・地域	入学人数(状況)
H29	ミクロネシア連邦チューク州 ミクロネシア連邦ヤップ州	2名(卒業)
H30	ミクロネシア連邦コスラエ州 マーシャル諸島共和国(マジュロ)	2名(卒業)
R1	パラオ共和国コロール州 ミクロネシア連邦ポンペイ州	2名(卒業)
R2	ミクロネシア連邦ヤップ州	1名(卒業)
R3	ミクロネシア連邦チューク州 ミクロネシア連邦ヤップ州	2名(卒業)
R4	マーシャル諸島共和国(マジュロ)	1名(在学中)
R5	ミクロネシア連邦コスラエ州	1名(休学中)
R6	ミクロネシア連邦ポンペイ州	2名(入学予定)

(7) 上智大学 Island Sustainability 研究所の支援【継続】

2022年7月、上智大学は、島嶼部や島嶼国が良質な発展を遂げられるスキームの創成を目指し国内外を対象としたシンクタンク機能を有する Island Sustainability 研究所を設立した。APICは上智大学と連携協定を締結しており、同研究所は、国際機関、政府関係機関、国内外企業、法人、国外の著名連携大学によるコンソーシアムの形成を予定しているところであるが、APICもそれに参加する予定である。具体的な支援としては、シンポジウムの共催や、シンポジウム、セミナー等の被招待者や歓迎会の費用負担等が考えられる。

(8) 次年度以降の案件調査費・予備費

次年度以降の事業の発掘や検討のための調査費用（予備費）および予備費

2. 日・カリブ友好協力事業

カリブ諸国の信頼関係を構築し、友好関係の一層の推進を図るため、「日・カリブ友好協力基金」を活用して、カリブ諸国の環境、エネルギー及び観光の分野における開発協力事業として、在外日本大使館及び外務省中南米局カリブ室の協力を得ながら、次のプロジェクトを実施する。

(1) 西インド諸島大学・大学生招待計画【継続】

新型コロナウイルス感染症蔓延による渡航制限等に鑑み令和2～4年度は実施が困難となり中止としたが、令和5年度以降は過去に冬季（1月）実施していたものを夏季（7月）に変更して実施することとした。本年度は、西インド諸島大学の各校（ジャマイカのモナ校、トリニダード・トバゴ共和国のセント・オーガスティン校、バルバドスのケープヒル校、アンティグア・バーブーダのファイブ・アイランズ校、グローバルキャンパス）の大学生計5名を我が国に招待して、上智大学において日本等についての基礎講義を受講させるとともに、環境、エネルギーなどの関連施設の視察の機会を与える。実施時期は2024年7月を予定。太平洋諸島大学生招待計画と同時に実施する（前述）。

(参考)

年度	対象国（人数）
H27	ジャマイカ(2)、バルバドス(2)、トリニダード・トバゴ共和国(2)、 モントセラト(1)、セントビンセント及びグレナディーン諸島(1)
H28	ジャマイカ(2) バルバドス(2) トリニダード・トバゴ共和国(2) セントルシア(1) セントクリストファー・ネービス(1)
H29	ジャマイカ(3)、ガイアナ共和国(2)、トリニダード・トバゴ共和国(2)、 バルバドス(1)
H30	ジャマイカ(2)、バルバドス(1)、トリニダード・トバゴ共和国(3)、スリナム 共和国(1)、セントビンセント及びグレナディーン諸島(1)
R1	ジャマイカ(1)、バルバドス(1)、トリニダード・トバゴ共和国(1)
R2	トリニダード・トバゴ共和国（オンライン受講のみ）
R3	トリニダード・トバゴ共和国(1)、バルバドス(1)、ジャマイカ(1)、 オープンキャンパス→中止
R4	中止
R5	トリニダード・トバゴ共和国(1)、バルバドス(1)、 ジャマイカ(1)、アンティグア・バーブーダ(1)、セントルシア(1)
R6	トリニダード・トバゴ共和国(1)、バルバドス(2)、 ジャマイカ(1)、アンティグア・バーブーダ(1)

(2) カリブ諸国・記者招待計画【継続】

カリブ島嶼国の有力記者を招待して、我が国の環境保護・防災・エネルギー利用などについて理解を深め、もって我が国の現状についての広報を行ってもらう。本年度は、ジャマイカとバルバドスから各1名を招待する予定で、島根県隠岐郡海士町を訪問し、環境・エネルギー等の関連施設の視察を行い、我が国の環境保護、エネルギー利用などについて理解を深め、我が国の現状についての広報を行う。公益財団法人フォーリン・プレスセンターの協力を得て太平洋記者招待計画と同時に実施するものである。実施時期は2024年9～10月を予定（前述）。

(参考)

年度	対象国（人数）
H28	ジャマイカ(1)、トリニダード・トバゴ共和国(1)
H29	ジャマイカ(1)、バルバドス(1)、グレナダ(1)
H30	トリニダード・トバゴ共和国(1)、 セントビンセント及びグレナディーン諸島(1)
R1	ジャマイカ(1)、セントクリストファー・ネイビス(1)
R2	ジャマイカ(1)、バルバドス(1) 延期
R3	ジャマイカ(1)、バルバドス(1) 延期
R4	ジャマイカ(1)、バルバドス(1)
R5	トリニダード・トバゴ共和国(1)
R6	ジャマイカ(1)、バルバドス(1)

(3) カリブ諸国・リーダー招待計画【継続】

昨年度は、バルバドスの国民エンパワーメント・高齢者問題大臣の招待を実施した。2024年は、日・カリコム関係30年、日・ジャマイカおよび日・トリニダード・トバゴ国交樹立60年を記念して日・カリブ文化交流年と定め、文化分野の政府関係者・学識関係者の訪日を実現したい、という外務省の要請を受けて、5か国（バルバドス、トリニダード・トバゴ、ジャマイカ、ハイチ、ベリーズ）から各2名ずつ招待予定（昨年度実施予定であったが、スケジュールが調整できず繰越となったもの）。別途、ジャマイカ及びバルバドス各在外大使館からリーダー招待について要請があり、検討中。

(参考)

年度	人数
H28	4名
H29	4名
H30	4名
R1	6名
R2	0名
R3	0名

R4	6名
R5	5名
R6	12名

(4) 西インド諸島大学・大学院生支援【継続】

カリブ地域の環境問題に携わる人材の育成を行うことは意義があるという観点から、以前より上智大学、APIC と関係のあった西インド諸島大学（UWI）と協力し、前述の APIC-MCT 留学と同様の大学院制度を創設する案が生まれた。2022 年には在バルバドス日本大使館の協力も受け、UWI、上智大学、APIC の三者間の協定を締結。これにより、UWI のケーブヒル校からの推薦があった 1 名を毎年上智大学地球環境学研究科で受け入れることが可能となった。この制度の目的は、大学院での学びを通して、カリブ地域の国々の環境問題に関して取り組み、国際社会に貢献できる人物を育成することである。

2023 年秋には UWI ケーブヒル校の卒業生が 1 期生として同研究科に入学、2 年間をかけて修士号取得を目指している。現在、在学生 1 名、2024 年 9 月に 2 期生 1 名の入学を予定している。

(5) 上智大学 Island Sustainability 研究所の支援【継続】

2022 年 7 月、上智大学は、島嶼部や島嶼国が良質な発展を遂げられるスキームの創成を目指し国内外を対象としたシンクタンク機能を有する Island Sustainability 研究所を設立した。APIC は上智大学と連携協定を締結しており、同研究所は、国際機関、政府関係機関、国内外企業、法人、国外の著名連携大学によるコンソーシアムの形成を予定しているところであるが、APIC もそれに参加する予定である。具体的な支援としては、シンポジウムの共催や、シンポジウム、セミナー等の被招待者や歓迎会の費用負担等が考えられる。

(6) 次年度以降の案件調査費・予備費

次年度以降の事業の発掘や検討のための調査費用および予備費

3. 国際協力に関する講演事業

(1) APIC 早朝国際情勢講演会【継続】

本件早朝講演会は、外務省幹部、在外大使等による時局の日本の外交課題や激動する国際情勢などについて質の高い内容の話題を提供する講演会として、参加者から評価が高い。本件講演会は APIC が諸活動を展開する上で欠かせない事業であり、今後とも会員の期待に沿えるように毎月 1 回(8 月を除く)企画して行く。2021 年 5 月に初めてオンライン配信を導入、以降会場とオンライン配信の同時開催をしており、参加者からの需要も高いため今後も暫く継続して開催する。

(2) 国際協力懇話会【継続】

(1)と同様に、テーマは外交課題・国際情勢等であるが、参加者を 20 名前後とした小規模の懇話会を年 3 回程度実施する。

4. 留学生奨学金事業【継続】

ザビエル高校(ミクロネシア連邦チューク州)には、ミクロネシア連邦のみならず、パラオ共和国、マーシャル諸島共和国の最優秀の生徒が入学する。卒業生としてミクロネシア連邦モリ元大統領を始めとしたそれぞれの国のリーダーを輩出している。APIC が上智大学と協力して開始したこの「留学生制度」については、3 カ国の首脳の間で極めて高い評価が得られている。

上智大学・ザビエル高校・APIC 間で締結した留学生協定に基づき、2014 年 9 月から下記の表のとおり、ザビエル高校の卒業生が上智大学に入学している。2018 年から 2024 年までの間に 6 名が卒業した。2021 年、2022 年は新型コロナウイルスに関わる渡航制限などを考慮し、受け入れ中止となったが、2023 年度より再開。現在 3 名が在学中であり、今年度 9 月には 2 名の新入生の入学が予定されている。

ザビエル留学生は、日本での留学中に上智大学で勉強に励むと同時に、過去には広島での上智大学ソフィア会の年次大会や佐原の大祭（千葉県香取市佐原）に参加、島根県隠岐郡海士町を訪問し、日本の歴史・文化・社会についての知見を深めるなど課外活動も経験している。本年度も、支援をしていく予定。引き続き、募金活動に努力するとともに、留学生に対する生活費等の支給を含め留学が充実するよう支援を行っていく。（なお、APIC は旅費、生活費を負担、上智大学は学費、寮費を負担。）

(参考)

年度	入学者出身国・地域	入学人数
H26	ミクロネシア連邦チューク州	1 名
H27	ミクロネシア連邦ポンペイ州	1 名
H28	ミクロネシア連邦ポンペイ州	1 名
H29	ミクロネシア連邦ポンペイ州 ミクロネシア連邦コスラエ州	2 名
H30	ミクロネシア連邦コスラエ州 ミクロネシア連邦チューク州	2 名
R1	パラオ共和国	1 名
R2	ミクロネシア連邦ポンペイ州 パラオ共和国	2 名
R3	-	0 名
R4	-	0 名
R5	ミクロネシア連邦ポンペイ州 パラオ共和国	2 名
R6	ミクロネシア連邦チューク州 ミクロネシア連邦ヤップ州	2 名